

【例題一大卒教養5】

平安時代末期の院政と平氏政権に関する次の文中の下線部分ア～オについての記述のうち妥当なのはどれか。

1086年、白河天皇は上皇となってア院政を開始した。上皇は中級貴族層を支持勢力に取り込み、源氏や平氏等のイ武士団を登用して院の権力を強化した。その後、院政は本格化し、以後、鳥羽上皇、後白河上皇と続いた。この時期にはウ知行国制が定着した。

平治の乱後、平氏は後白河上皇との結びつきによって急速に台頭し、1180年には平清盛が政治の実権を握ってエ平氏政権が確立した。平氏政権ではオ日宋貿易や福原遷都が行われたが、独裁的な政治に対する不満が高まり、1185年平氏は壇の浦で滅ぼされた。

1. ア—院政は、天皇への影響力が弱くなった摂関家が上皇を擁立して、上皇を後見する形で始まり、律令制度に従った政治が行われた。
2. イ—武士団は、僧兵の強訴対策や平安京の治安維持などで大きな力を発揮し、保元の乱・平治の乱という朝廷内部の争いもその実力をもって決着させたことから、国政上の地位を飛躍的に上昇させた。
3. ウ—知行国制とは、荘園制に代わって導入された制度であり、貴族や寺社から荘園を没収し、その代わりに一国の支配権を与えるものであった。
4. エ—平清盛は征夷大將軍の地位を得ると、朝廷から独立した独自の統治機構を確立して、武士の棟梁による初めての政権を作った。
5. オ—平清盛は瀬戸内海の航路の安全を図り、貿易を積極的に推進したが、日宋貿易は日本が宋に朝貢するという形式で行われたため、批判も多かった。

(正答) 2